

Oxbridge 研修で変わった自分

石原 大地

私は今、これから英語力をどんどん伸ばしていけることを楽しみにする気持ち、自分の学びたい分野をとことんやりきってやろうという強い思い等、研修前には持っていなかったような思いを持っている。この研修中には「自分が変わったと思える瞬間」がたくさんあった。そういう瞬間がどれだけ得られるかは行動するときの自分の積極性や自主性次第だった。私はイギリスでの研修をやりきれたと言える。しかし、この研修の目的は、今回得られた貴重な経験を今後の人生で最大限活かしていくこと。そして忘れてはいけないのが、この経験を前橋高校に還元することである。この報告書に少しでも多く、私が得た経験や感じたことを記したいと思う。



●最初の変化

オックスフォード到着後、まずは3人のRA（研修を計画してくれるオックスフォード生）から現地で研修についての説明があった。もちろんすべて英語で、彼らはわかりやすく伝えてくれたのだが、私はほとんど理解できなかった。その後オックスフォード探索の途中、RAの1人に「お湯は使えますか？」と聞こうとした。正しい語句、正しい聞き方で聞いたはずなのに、なぜか通じない。結局、その会話は成り立たずに終わった。簡単な英語も聞き取れず、簡単な質問さえもできず、早くも私の心はズタズタだった。しかし同時に、このまま終わらせたくはないという思いが強くあった。◇ ◇ ◇ 部屋に戻り、質問で使った語句、発音、聞き方に間違いがあったのか辞書で確認してみた。だがやはり間違いはなかった。その時、自分の中で何か振り切れたように感じた。もっと自分に自信を持つ、気持ちを切り替えてもっと熱意を表に出して話してみよう、そう思った。すると、不思議とそれからの会話では、自分の考え、思いがきちんと理解してもらえるようになった。もしも気持ちを切り替えられずに消極的なまま取り組んでいたら、とても悔いが残る研修になっていただろう。これが、この研修で最初に「自分が変わった。」と思えた瞬間だった。また、研修が進むにつれ、耳も慣れていき、相手の言うことも概ね理解できるようになった。英語で相手とコミュニケーションできることがこれほど楽しいのかと思えた。◇ ◇ ◇ 英語を話すときに私が意識していたこととしては、「難しい英語の表現を無理にせず、分かりやすく伝えること」だ。この研修でこのことの重要性を改めて感じた。難しい表現は相手にとっても理解するのが難しい。より確実に、より多くの様々な英語レベルの人に伝えようとすれば、これは必須の技術と言える。

●岡本 尚也さんの講演

岡本さんの話は、今まで自分が考えたこともなかったような鋭い考えばかりで、自分も講演中、いつも以上に考えさせられた。講演終了後は、脳が疲れているのがよく分かった。岡本さんの話については他の仲間も紹介するだろうと思うので、ここでは程々にさせていただく。岡本さんの講演を聞いて、「自分の言葉」さらには「自分そのもの」を大事にすることが大切だと思った。「他から

入ってくる情報を鵜呑みにせず、そして、マジックワード（聞こえはいいが抽象的で、何を意味しているのか分からない言葉）に騙されず、自分の言葉で考えを積み上げていけ。」というような話は特に印象的で、周りに流されやすい自分には、とても貴重な話だった。また、「自分の言葉を積み上げるには知識が必要。」「物事の本質を見られているか？1つのことから多面を学べ。」「保護者、先生、友人は自転車の補助輪で、あくまで自分の足で人生を歩め。0から1を生み出すのは自分だ。」などなど、胸に刺さるものばかりだった。この講演の内容も丸ごと鵜呑みにするのではなく、自分の積み上げの貴重な材料として大切にしたい。



●活躍している人たちは…

この研修では、オックスフォード、ケンブリッジ、UCL、チューリッヒ工科大の学生、そこで研究している方や先生など、様々な方とふれあう機会があったが、いくつか彼らに共通していることがあった。そのうちの2つを紹介したい。1つ目は、みんな自分の意思をもち、それを貫いていることだ。学びたい分野、留学、そして目的を自分で決め、世界トップレベルの場所で何年も学び続けた。2つ目は、人との出会い、つながりを大切にしていることだ。現地での同僚、恩師らとともに友好的なかかわりを築き、学習や研究で考えを共有したりしていると言っていた。私も前橋高校、そしてこれからの人生で人との出会い、つながりを大切にしていきたい。また前高生にもぜひ大切にしてもらいたい。

●研修はまだまだ続く！これからが本番！

繰り返しになるが、研修中は何をやるにも自分次第だった。考えて終わりではなく、まずはアクション。自分が消極的なら、相手はなかなか寄ってきてくれない。前述した切り替えができたことで、イギリスでの研修はやりきれたし、今は「この研修に参加してよかった」と心から思える。◇ ◇ ◇ ここまでできる範囲で自分の経験を伝えてきたが、これが少しでも参考にもなってくれたら嬉しい。だが、今伝えたことはそのほんの一部分にすぎず、この報告書では到底すべてを伝えきることなど



できない。あとはこれから、この研修で学んだことをフルに生活に活かして、多方面でみんなを引っ張っていけたらと思う。少々荷が重いが、前高に還元することは参加者の義務であると思うので、気を引き締めて生活していきたい。また、チャンスは、気づかないだけでそこら中に転がっているということも今回学んだことの1つだ。広い視野を持ってチャンスを逃さないようにしていきたい。◇ ◇ ◇ とはいえ、この研修の価値、英語を使えることの楽しさを最大限に感じたければ、やはり実際に研修に参加してみることを強く勧める。人それぞれ目的は違うだろうが、きちんとした目的を持って参加すれば、必ずや自分の殻を破り、「計り知れない価値の何か」をつかめることだろう。1年生はもちろん、2年生もまだチャンスはある。ぜひ参加して、前高にさらに還元して行ってほしい。最後に、この研修を支えてくださった校長先生、副校長先生、加藤先生、ISAの松井さん、家族、24人の仲間、そして、この研修に関係してくださった日本、イギリスの方々に感謝したい。